

WHO をゆく 感染症との闘いを超えて

尾身 茂 著

著者の尾身茂先生は 2009 年に帰国されるまで、20 年間近くにわたり世界保健機関 (WHO) の西太平洋事務局 (WPRO) で活躍されてきた。前半は感染症の対策官としてポリオ根絶などの課題に取り組み、後半の 10 年間は WPRO の地域事務局長として西太平洋地域の保健・衛生全体の責任者として SARS (重症急性呼吸器症候群) への対応などでリーダーシップを発揮された。その WHO 勤務の間に経験した、ポリオ・結核・SARS・鳥インフルエンザなどの対策に当たった経験をまとめたものが本書である。

2003 年の SARS の流行でも明らかになったように、21 世紀の感染症対策にはグローバルな視点からの対応が必要である。しかし国際的な感染症対策の現場には多くの困難がある。本書ではそのような困難な現場で、尾身先生がいかにして 1 つ 1 つ問題を解決し道を切り拓いてきたかが、いくつかのエピソードを交えながらダイナミックに描かれている。また WHO での感染症対策だけでなく、尾身先生が日本に帰国してすぐに発生した 2009 年の新型インフルエンザに、国の諮

問委員会の委員長として対応に当たった際の出来事や、東日本大震災への支援についても述べられている。さらには、日本の社会の根底にある問題を見据えて、日本の医療や地域の公衆衛生のあるべき姿についても多くの示唆に富む提言がなされている。

尾身先生は国際社会でリーダーとして活躍してきた数少ない日本人の 1 人である。最近の日本人は内向き志向といわれる。しかし、日本の経済的な存在感が薄れていくなかで、保健・医療の分野でもっと多くの日本人が国際社会に出て行って積極的な貢献をしていくことが、日本という国の存在感を維持するためにも必要である。多くの医療関係者、特にこれからの保健・医療を担う学生たちが本書を手にして、国際社会に羽ばたいていくきっかけになればと思う。

東北大学大学院教授・微生物学 押谷 仁

A5 頁 176 2011 年

定価 2,940 円 (本体 2,800 円 + 税 5%)

[ISBN978-4-260-01427-4] 医学書院刊